

南砺市中教研研究計画

会長 齊藤 哲也
会員数 119名(3名)

1 本年度研究の基本方針

主題の解明を図るために、研究主題と研究内容（P）、授業研究と研究発表（D）、学力調査等（S）のトライアングルの関係を重視し、研究を推進する。

- (1) 指導内容を小・中・高等学校一貫の立場から見通し、相互の関連を図りながら系統的・発展的な指導に努める。
- (2) 基礎的・基本的な知識及び技能が確実に身に付くよう、個に応じた指導の充実を図る指導計画、指導方法や指導体制の工夫・改善に努める。
- (3) 生徒の自主的・自発的な学習活動を促し、考えを深め合い、思考力、判断力、表現力等を養うとともに、学び方が身に付く指導計画、指導方法の改善に努める。
- (4) 指導計画や指導方法の改善に生かすため、学習の過程や成果を評価規準に基づいて評価し、指導と評価の一体化に努める。
- (5) 研究の成果を振り返り、日常の教育実践に生かすことができる研究の継続と累積に努める。

2 部会構成と研究主題

番号	部会名	部員数	研究主題
1	国語	14	言葉による見方・考え方を働かせ、思考・判断・表現する言語活動を通して、国語の資質・能力を育成するための指導はどうあればよいか。 — 言葉に対する自覚を高める言語活動の工夫 —
2	社会	13	社会的な見方・考え方を働かせ、社会的事象を主体的に追究する生徒を育てるには、どのようにすればよいか。 — 「思考力・判断力・表現力等」を育てるための教材開発や学習活動はどうあればよいか —
3	数学	15	数学的に考える資質・能力を育成するために、数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、深い学びを実現する指導はどうあればよいか。 — 振り返りの場面の充実を目指して —
4	理科	14	理科の見方・考え方を働かせ、自然の事物・現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を育成するにはどうすればよいか。 — 観察、実験等を行い、科学的に探究する力を養うための指導の工夫 —
5	音楽	6	幅広い音楽活動を通して、「音楽的な見方・考え方」を働かせ、音楽文化と豊かに関わる資質・能力を育成するにはどうすればよいか。 — 「育成を目指す資質・能力を明確にした指導計画と指導に生かす評価 —
6	美術	6	表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の美術や美術文化と豊かに関わる資質・能力を育成するための学習指導はどうあればよいか。
7	保健 体育	13	心と体を一体として捉え、生涯にわたって運動に親しみ、明るく豊かな生活を営む態度を育てる学習指導はどうあればよいか。

番号	部会名	部員数	研 究 主 題
8	技術・家庭 (技術)	3	「いきてはたらく力」につながる技術・家庭科の教育の推進 — 生活にいかすための問題解決的な学習の充実 —
9	技術・家庭 (家庭)	2	「いきてはたらく力」につながる技術・家庭科の教育の推進 — 生活にいかすための問題解決的な学習の充実 —
10	英語	15	コミュニケーション能力を養うにはどのように指導したらよいか。 — 聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して —
11	道徳	11 (重複)	主として人との関わりに関する道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を広い視野から多面的・多角的に考え、人間としての生き方についての考えを深める道徳科の授業はどうあればよいか。 — 道徳的諸価値の理解を基に、道徳的な考えを深める発問の工夫 —
12	特別 活動	11 (重複)	学級活動を通して身に付けるべき資質・能力を育成するための指導はどうあればよいか。
13	特別 支援 教育	12 (重複10) (3)	特別な支援を必要とする生徒の個性や能力を伸ばし、自立と社会参加を推進するための指導はどうあればよいか。 — 生徒の教育的ニーズに応じた学習過程の工夫 —
14	保健	8	生涯にわたって主体的に心身の健康づくりに取り組み、健康で安全な生活を営む資質・能力を育てる健康教育はどのようにすればよいか。

3 年間計画の概要

月	会 合 名	会 場	内 容
4	研究部協議会	福野中	令和3年度の研究方針、組織、運営についての協議
6	地区研究大会	各会場	砺波地区各中学校との合同専門研修会
10	県研究大会	各会場	第65回研究大会西部地区大会への参加
1~2	編集委員会	福野中	「研究の記録」第17集の編集、論文・実践記録の審査
3	役員運営研修会	福野中	本年度の反省、次年度の計画についての協議

4 留意事項

- (1) 学習指導要領のねらいや考え方等を踏まえて研究を推進するとともに、学習指導要領の中核をなす「生きる力」を育む教育を推進するために、研究組織、研究内容、研究方法の改善を図り、より充実した研究を推進する。
- (2) 南砺市中学校教育研究会を母体とした研究体制のもとに、研究の継続を重視し、互いに緊密な連絡を取りながら実践的・組織的研究を推進する。
- (3) 県中教研の研究主題に基づき、次年度以降の研究の方向を見通しながら、年度ごとの成果と課題を踏まえて研究計画を立て、研究を推進する。
- (4) 県中教研学力調査や各校におけるペーパーテストの結果を基にS-P表等を活用して分析し、きめ細かな学習指導に生かすとともに、確かな学力が身に付くよう、研究を推進する。